

報道関係者各位
プレスリリース

2021年6月

株式会社青幻舎

ジャンル：
建築、写真集

建築家・隈研吾の原点を知るための一冊

「隈研吾 はじまりの物語 ゆすはらが教えてくれたこと」発売

株式会社青幻舎は、現代日本を代表する建築家のひとり、隈研吾のその原点と呼べる町、高知県・^{ゆすはら}梼原町での30年に渡る歩みを、隈自身による語りと、写真家・瀧本幹也が切り取った梼原の隈建築群の写真で辿る写真文集「隈研吾 はじまりの物語～ゆすはらが教えてくれたこと～」を2021年6月下旬に刊行します。



著者への取材などご要望がございましたら、下記担当までご一報下さい。何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社青幻舎／東京支社
〒135-0047 東京都江東区富岡 2-11-18-8F
TEL 03-6262-3420 ・ FAX 03-6262-3423
広報担当：新庄清二 (shinjo@seigensha.com)

書籍概要

2000年代以降、木材は隈研吾の建築において主要な素材となっており、柱や梁といった構造、パネル板や薄いルーバー（羽板）といった装飾など、その使い方は縦横無尽だ。しかし、隈が木材を使うことになったきっかけに高知県・^{ゆすはら}梶原町との出会いがあったことはあまり知られていない。

バブル経済がはじけて、東京の仕事がすべてキャンセルされた時に、隈は梶原と出会い、そこではじめて、町からのリクエストに応える形で木材を使い始めることになったのだ。

本書では、隈がはじめて木造を用いた建築となる「雲の上のホテル」をはじめ、「梶原町総合庁舎」「雲の上のギャラリー」「まちの駅『ゆすはら』」「雲の上の図書館／YURURI ゆすはら」の、梶原町にある5つの隈建築を年代順に紹介しながら、隈が続けてきた木材の実験的な試みと進化を辿る。

時に新しい長が前任者の仕事に反発し、継承されないこともある行政での仕事にもかかわらず、梶原町では歴代の町長みなが建築を大事にし、約30年にわたり、一貫して街づくりに携わることができた。この経験が後の国立競技場や歌舞伎座を始めとする、場所に根付いた建築を作る過程で生かされたと、隈は述懐する。

また本書に収録されている梶原の隈建築群の写真は、主に広告写真やCMの世界で活躍しながら、『Le Corbusier』（2017）など建築写真の評価も高い写真家・瀧本幹也が撮影している。瀧本が直感的に隈建築に合うと感じた硬質な光によって、情緒を排して切り取られた写真は、梶原の建築が持つ木の質感を見事に捉えており、隈も「本書の写真はその陰影を巧みに捉え、木という物質の本質を捉えています」と語る。

2011年の東日本大震災を経て、新型コロナウイルスのパンデミックを経験し、隈が提唱する、いわゆる「負ける建築」によって社会とつながり、共同体のあり方を捉えなおす建築観が重要さを増している。

本書は、1964年の東京オリンピックをきっかけに建築を志した隈が、新しい未来の可能性を見出すきっかけとなった、日本の小さな町とそこに住む人々の営みとの、特別な出会いの物語である。

著者のことば

梶原に出合って、僕は生まれ変わった。梶原で古い木造の芝居小屋に出会い、素敵な森と出会い、様々な職人さんと出会って、僕は生まれ変わった。

80年代のバブル経済がはじけて、東京の仕事がすべてキャンセルされた時に、この梶原との出会いがあった。今思えば、その時、梶原という特別な場所に、呼びよせられたように感じる。森に棲む何かが、僕を呼び出して、何かとても大事なことを伝えようとしたように感じる。

隈研吾（本書まえがきより）

書誌情報

発売：2021年6月下旬

本書は東京国立近代美術館で開催される展覧会「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」の会場で先行発売します。
（会期：2021年6月18日（金）～9月26日（日））

書名：隈研吾 はじまりの物語

ゆすはらが教えてくれたこと

語り：隈研吾

写真：瀧本幹也

造本設計：町口寛

判型：A5 変形／上製

ページ数：80頁

定価：本体 1,800円＋税

ISBN:978-4-86152-853-8 C0072

著者プロフィール

隈研吾

建築家。1954年生まれ。東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の国立屋内総合競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案。また、コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、日本建築学会賞、毎日芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、国際木の建築賞（フィンランド）、国際石の建築賞（イタリア）等、受賞多数。

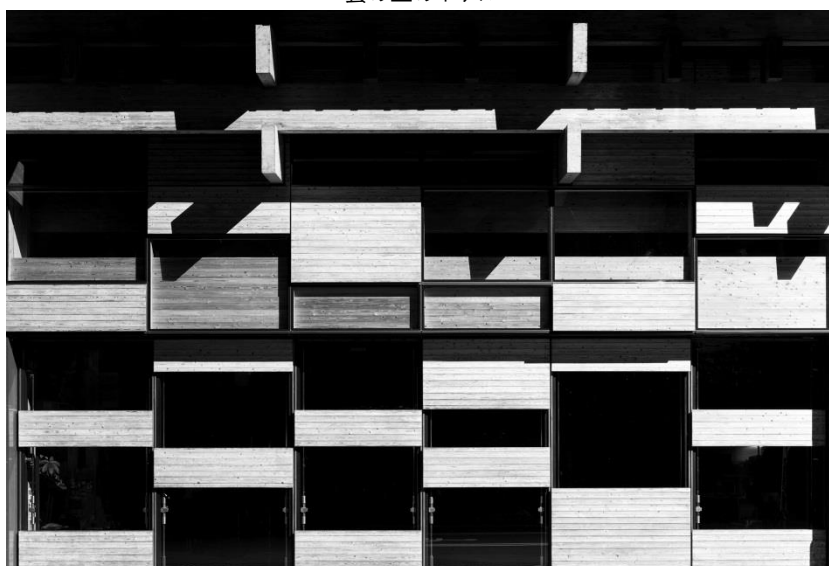
瀧本幹也

写真家。1974年生まれ。建築写真にかぎらず広告写真のフィールドで、ポートレート、静物など、さまざまな被写体と向き合う。そうした豊富な経験と卓越した技術のもと、独自の視点で捉えられる建築写真は高い評価を得る。代表作に『BAUHAUS DESSAU』（2005）『Le Corbusier』（2017）『LAND SPACE』（2013）など。映画では『そして父になる』『海街diary』『三度目の殺人』の撮影を担当。

作品画像①



雲の上のホテル



栲原総合庁舎



雲の上のギャラリー

作品画像②



雲の上のギャラリー



まちの駅「ゆすはら」



雲の上の図書館／YURURI ゆすはら